日刊 動労千葉

1988.12.19
No. 2943

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

東中野事故 真の原因は分割・民営化体制

革マル鉄道労連による 平野運転士への責任転化許すな

総武・中央線東中野駅構内で発生した電車の追突事故によって、JR＝国鉄分割・民営化とは何かということが鋭く問われている。そして、この根源的問いかけに対する反応によって、「4・1分割・民営化」にそれぞれがどうかかわってきたのかが、極めて鮮明に示されている。われわれは、このような事故によって、国鉄労働者と乗客の生命を、二度とふたたび失ってはならないという立場から問題点を解明していかなければならない。

事故でガタガタの東鉄労内部

われわれは、何よりもこの事故に対して、当該乗務員に責任をおしつけ、会社の責任逃れのお先棒をかつぐ立場から極めてヒステリックに反応している動労革マル・鉄道労連を徹底的に弾劾しなければならない。

日頃、当局とツルむ以外に、組合活動らしきことを何もやっていない東鉄労千葉地本が、十二月五日に、「重大事故に関する緊急アピール」なる東鉄労中執委と全く同じ内容の「緊急アピール」を地本執行委員会名で発して以降、バタバタとビラを出し、十二月十日、地本定期委員会で、「安全輸送を確立し、お客さまの信頼を回復する決議」をあげるなど、組合員をひきとめるため必死になっている。

労働組合ならざる東鉄労千葉地本でさえ、必死にならざるをえないほど、国鉄労働者の怒りと東鉄労離れが激しく、東鉄労内がガタガタになっているということである。

事故に対して怒りのカケラもない東鉄労

動労革マル・東鉄労が次々と出したビラ等は、国鉄労働者の怒りをますますかりたてるだけで、東鉄労それ自体が労働組合の仮面をかぶった会社の手先であることを、より一層はっきりとさせるもの以外のなにものでもないことを示している。

このビラ類に共通していることは、

第一に、平野運転士と乗客の死に対する怒りがカケラほどもないこと、

第二に、事故の原因と責任について一言も触れていないこと、

そして、第三に、動労千葉や国労の「この事故を利用した」組織攻撃に気をつけろ、という三点である。

国鉄労働者と家族を愚弄する東鉄労

この間の、動労革マル・東鉄労のビラほど、国鉄労働者を愚弄するものはない。

千葉管内の、否、全国の乗務員とその家族、とりわけ、国電区間の乗務員と家族は、いつ、自分が、平野運転士とその家族と同じ立場に叩き込まれるかわからないという不安を、組合所属のいかんを問わずひとり残らず持っているということである。

この国鉄労働者と家族の気持ちは、自分の所属する労働組合が、

「平野運転士の死は衝撃的である」

「哀悼の意を表する」としか言わず、

ひたすらお詫びするという対応しかとらなかったらどうなるのであろうか。

われわれは、この事故の原因と責任が、すべて、「4・1分割・民営化」体制そのものにあることを厳しく弾劾しなければならない。

動乗勤改悪による極限的労働条件の悪化とダイヤ至上主義、そして、暗い職場を作り出している強権的労務支配、これこそが事故の真の原因なのだということを、全ての国鉄労働者は知っているのだ。

12/26 木戸君脱退強要事件 千葉地労委闘争
本千葉駅 14時30分集合

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！